

# 棚田の荒廃食い止める

## 来年 助っ人集団発足10年

新 潟

全国の棚田の約一割田を保全するため田圃で、県内に約一万六百の作物を荒らすマユヤイを止める新法が開発。荒れ地を再生する。約二〇〇五年、農林ノシシと、人々の生活を支えるため、荒れ地を再生する。約二〇〇五年、農林ノシシと、人々の生活を支えるため、荒れ地を再生する。



新潟県の旧山古志村地区で、田圃を再生させる「ECHIGO棚田サポーター」の会員たち（07年5月）



「ECHIGO棚田サポーター」の会員たち（07年10月、新潟県十日町市）

会員は約六百十人で、二十代から七代に幅広い。県内の人々がほとんどだが、長野、千葉、東京などの県外会員も、地区も集落の作業に応じて手弁当で作業する。

「野菜の収穫アップ」鳥取大乾燥地研究所をカサハラ砂漠南西のモーリタニアで実験の準備をする関係者（鳥取再資源化研究所提供）



鳥取大乾燥地研究所をカサハラ砂漠南西のモーリタニアで実験の準備をする関係者（鳥取再資源化研究所提供）

# 検証 岐路の瞬間

## 拉致問題 日朝交渉

下

日本外交最大の課題を「解放」と伝えてき、担当者体制の体制で、とされる北朝鮮との国々から。この人物は田中にも交正常化。一九九〇年、田中は現在もこの当「X」権力中核、秘書の良民、社会両代表、局者について明かさない。記者団に決断を促す立場が、外務省幹部に、否か、その一点を直視はその後、北朝鮮が、自らを国家安全、めまうとした。日本入拉致を認めず、保衛部幹部の「金」と、日本側の要求が拒ま



「ミスターX」を相手に交渉した拉致をめぐる交渉も小泉訪朝後に、小泉訪朝（左下）、田中均元外務省アジア大洋州局長（右）、金古貞吉書記官（左）、「ミスターX」（右上）の「コラーシ」

**めで解放**

「この後、交換は日朝然の失脚も少なくない。平壤宣言の文書の詰め北朝鮮の政治体制。あに入った。拉致は明記なちボースだった。しないもの。被害者の安全情報に達すると日本側も考えない。

交渉もヤマ場を迎え、側の内容がなされること。国西岸の黄海上で、領が固まった。核・ミサ海軍に北朝鮮艦艇、イルカ艇について、多航が韓国海軍の艦艇に、国際間諜の枠組み構築が、死者を出す航が盛り込まれた。

五人生存、八人死亡。九月十七日、訪朝した小泉に金正日首は拉致を認め、被害者の情

**野菜の収穫アップ**

水速さず乾燥地で効果

鳥取大乾燥地研究所をカサハラ砂漠南西のモーリタニアで実験の準備をする関係者（鳥取再資源化研究所提供）

野菜の収穫アップ。鳥取大乾燥地研究所をカサハラ砂漠南西のモーリタニアで実験の準備をする関係者（鳥取再資源化研究所提供）

**暮らしのインテリア**

カーテンのたかはひ

カーテン、カーペット、ラグ、カーペット、ラグ、カーペット、ラグ

**映画案内**

「味にこだわり 頑固一徹」

「ごぶし」

**10% キャッシュバック!!**

「かばんひとつで即生活」

「ご法要膳 承ります」

「ごぶし」

「松原はなや」

「ご法要膳 承ります」

「ごぶし」

「松原はなや」